

商品市況展望

平成 25 年 1 月 13 日記

◆2013 年、シェールガス革命で世界は激変する 1 月 8 日 泉谷渉

今までは、石油があと 20~30 年、石炭が 100 年もたないという事情があるからこそ、原子力発電にいくか、太陽光、風力、地熱などの再生可能新エネルギーにいくか、という選択しかなかったのだ。ところが、である。シェールガス、すなわち砂や泥まみれの地中から取り出す天然ガスは、この状況を一変させてしまった。

なにしろ、1 キロワットあたりのコストが、石油 10 円、風力 20 円、太陽光 35 円というのに対し、シェールガスはたったの 6 円なのだ。しかも埋蔵量が少なくとも 150 年分、実際には 300 年以上もあるともいわれている。なおかつ、CO2 排出量は石炭に対し 40%、石油に対し 15% も少ないのだ。

米国はこのシェールガスの取り出しについて独占的な知財権で固めており、ピンポイントで見つけ出し、掘り上げ、精製まで持ち込むすべての工法を確立している。世界のシェールガスの約 4 割は米国にあるといわれている。中国をはじめ、世界各地にはシェールガスはあるものの、前記の事情で、米国が一気に最先行することになる。

日本の技術が支えるシェールガス革命

しかして、わが国日本ではシェールガスはほとんど出てこない。わずかに秋田県由利本荘でシェールオイルが見つかった程度である。それならシェールガス革命は米国に最大の恩恵をもたらすが、日本にはそれほどのメリットはないのでは、と考える人たちも多い。

ところが、実はそうではないのだ。結論を先に言えば、シェールガス革命で日本の企業には莫大なメリットが生じてくる。

シェールガスを取り出すためには 2000 メートルも掘り下げるわけであり、この圧力に耐えられる鋼管パイプは、新日鉄住金など、日本の鉄鋼メーカー以外には作れない。シェールガスを精製して気体から液体、液体から気体へとリサイクルを行うが、このプラントは住友精密工業と神戸製鋼しか作れない。

一番難しいのはアルミの穴あけなのだ。技能オリンピックで十数年連続金メダルを取る日本の「匠」の技術の一つが、アルミの穴あけなのだ。シェールガスを収納する運搬容器には炭素繊維が使われる。この分野は東レ、帝人、三菱レイヨンの国内勢が世界シェアの約 70% を握っており、ここにも強い追い風が吹くのだ。

また、シェールガスは大型タンカーで輸送することになるが、ここでモノをいうのがアルミの厚板であり、これまた古河スカイなど日本勢しか作れない。地中から引き上げてきたシェールガスの原材料に対し、大量の水を使うが、この水量全体を減らすために膨大な窒素を使用することになる。

材料ガス国内最大手の大陽日酸は、笑いが止まらないかもしれない。さらにいえば、シェールガス採掘に伴う工事は土木であり、大型ブルドーザー、各種ショベル、大型トラックが必要になる。コマツや日立建機もまた笑いが止まらないだろう。

そしてまた、これらの建機に使用する超大型タイヤは、世界でただひとつブリヂストンにしか作れないのだ。東京都は 400 億円のファンドを積んで、東京湾岸に火力発電 10 基を作る計画を打ち出している。猪瀬直樹知事は必ずや断行するだろう。ここにもシェールガスを中心とする天然ガスが採用される。

原発稼働や着工が難しい現状にあって、火力発電こそが日本の中心的なエネルギーになるだろう。世界的に見ても火力発電こそが主力、という声が多いのだ。こうなれば、原発プラントで世界トップシェアを持つ東芝は、その持てる技術をシェールガスに転用して稼ぐだろう。また、ガスタービンでは世界ナンバーワンの折り紙つきの三菱重工業にも福音がもたらされることになる。

排水や薬液などの環境問題も難なくクリア

最近になって、国内化学メーカー第1位の三菱ケミカルホールディングスは、米化学大手のダウケミカルと提携し、シェールガスを活用した石油化学コンビナート構築を打ち出した。

シェールガスから基礎化学品のエチレンを生産すると、コストが日本の化学工場の20分の1になるという。つまりは、自動車部品や液晶パネルに使う樹脂工場をローコストで建設し、世界の競合メーカーに対して先行してブッチぎっていかうとの考えなのだ。

一方でシェールガスは大量の排水があり、多くの薬液も使われることからEU諸国の中にはこれを禁止する国も出てきた。つまりは、公害問題の発生がデメリットという向きもある。ところがどっこい、それなれば世界ナンバーワンの日本の水処理技術がすべてを解決してしまう。三機工業、栗田工業、荏原の出番が来たのだ。

2013年は米国で1万カ所のシェールガス掘り出しが始まるといわれている。三菱商事、三井物産、住友商事、双日など世界に誇る日本の総合商社は、これらの掘り出しに大量の出資をしており、かなりの権利を握っている。

それゆえに、現在の天然ガスのような高い価格で日本がシェールガスを輸入するという事はない。シェールガス革命は米国におけるモノづくりを大復活させ、日本の最大の輸出先は中国から再び米国に変わるのだ。反日ではない国、米国との取引が一気に拡大することは確実であり、もしかしたらこれが最大のシェールガスメリット、と言ってもいいかもしれない。

昨年暮れから大幅に進む円安で、国内商品市場は急騰を演じている。また国内株式市場も、アベノミクスからの円安&公共事業期待などで上昇を続けている。

そんな中で、今世紀最大の革命と言われているのが、このシェールガス革命だ。これは今後の世界を激変させるのだろう。

今回紹介したこのレポートには、このシェールガス革命によって今後、業績をアップさせるだろう企業が目白押しに載っている。

当方はあくまでも「商品市場の外務員」であり、株式市場に関しては門外漢ではあるが、株式市場以上に激しい商品相場の世界に30年身を置き、また実際に運用して来ている。だからこそ、「商品よりは株の方が簡単だろ！」という自負があるわけで、今のこの御時勢と今後のシェールガス革命で将来儲かりそうな話に乗らない手はない、と思っているわけだ。

もしも皆さんが株で儲かったとしても、「商品市場の外務員」である当方にとっては正直、何の益も無い。しかし当方も皆さんと同じ「ひとりの個人投資家」でもあるし、何よりも「日本人として日本企業が世界で強くなる事はうれしい」わけでもあり、何よりもこのようなレポートを出している以上、「皆さんの軍師」でありたいと考えている。

世はネット取引全盛で、基本的に手数料収入を主とする営業マンは淘汰の一途をたどっている。ただし我々のようなプロが必要とされる場面は、投資家が儲けるために勉強が必要なのはわかっているけど、「一体何を勉強すれば良いのか?」「相場の事は誰に聞いたら良いの?」と尽きない悩みに、答えてゆく事だと思う。

だからこそ当方は、自分が生き残るためにも「資産運用の軍師」にならないといけない、と思っているわけだ。そういう気持ちで、毎回レポートを作っているわけだ。

〔貴金属〕

○東京金日足
…削除済み…

今週の金の値動き

	2月限(当限)	前日比	12月限(先限)	前日比
1月7日	¥4,683	17	¥4,694	18
1月8日	¥4,638	-45	¥4,648	-46
1月9日	¥4,676	38	¥4,687	39
1月10日	¥4,704	28	¥4,715	28
1月11日	¥4,782	78	¥4,795	80

金相場は、先週号においては『円安の進行が止まらない限り、国内金価格の上昇は続くだろう。まずは上場来最高値の更新の4,754円オーバーを目指し、5,000円近い価格が出るのではあるまいか。よって押し目買いの継続が良いだろう』とコメントした。

今週の相場展開は、週末には4,820円(1/11)の高値まで上昇となり、ついに上場来最高値の更新となった。

今までの最高値である2011年9月の4,754円は、ついに突破した。初の4,800円台乗せである。

…中略…

また今週は8日に一手押しが入っているわけだが、この時は若干円安が緩んで、86円台に入る円高局面となった。こういう円高到来での押しは分かりやすく、そこからまた円安にぶれて、一気に150円超の上げを演じる事となったわけだ。今後もそういう場面は、買い場となるだろう。

さてその円安だが、今は90円～95円という意見が多く、中には105円～110円という意見もある。

そしてドル建て金価格の予測は、一番弱気な筋で1500ドル辺りまでの下落で、多くは1700ドル程度が平均、高く見る向きは2200～2400ドルという意見が主流だ。こういうのは、評論家・アナリストの勝手な意見ではあるが、「ドルは金とリンクして1万ドルになる！」なんていうトンデモ発言をする向きだっているわけで、チャート分析からも妥当な見方であるとも言える。

その予測を東京市場の価格で表すと、

…中略…

もちろん、この8,000円台を信じて買い続けるほど、当方も能天気ではない。ではないが、可能性はゼロではないのだから、現在の上場来最高値や5,000円台乗せが今後あったとしても、そこで一気に「天井だ！売りだ！」という弱気には傾きたくないわけである。

一時的にでも、大きく下がるという予測が出たらもちろん売るが、それは「あくまでも押しである」という考えで相場を張るといのが、今後の方針でもある。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京金一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年2月	¥4,654	2月27日	¥4,808	1月11日	¥3,885	6月4日	¥4,782
2013年4月	¥4,307	4月25日	¥4,811	1月11日	¥3,886	6月4日	¥4,787
2013年6月	¥4,023	6月27日	¥4,811	1月11日	¥3,940	7月24日	¥4,786
2013年8月	¥4,224	8月29日	¥4,814	1月11日	¥4,166	9月3日	¥4,789
2013年10月	¥4,404	10月29日	¥4,817	1月11日	¥4,330	11月6日	¥4,793
2013年12月	¥4,519	12月25日	¥4,820	1月11日	¥4,502	12月25日	¥4,795

○NY 金日足

…削除済み…

週末 1/11 の NY 市場は、前日比 17.4 ドル安の 1660.6 ドルでの終了。前日の急騰の反動で、大きく下げている。

チャートでは、1/2 の高値 1695.4 ドル～1/4 の安値 1626 ドルの中での動きであるが、流れは昨年 10/5 の高値 1798.1 ドルからの右肩下がりの戻り売り相場となっている。

現状の国内換算では…中略…

CFTC 発表の 1/8 現在のファンドのポジションは、…中略…

また 1/11 現在での ETF 残高は、…中略…

結論として当方の相場観は、円安が進む限り、東京市場の金価格の上昇は止まらないだろう。しかし NY 金はまだ強くないので、為替が一時的にでも円高にぶれば、その場面では押しが入ることになるだろう。そういうところが、買い場となるだろう。

○東京プラチナ日足

…削除済み…

今週のプラチナの値動き

	2月限(当限)	前日比	12月限(先限)	前日比
1月7日	¥4,401	11	¥4,432	14
1月8日	¥4,372	-29	¥4,403	-29
1月9日	¥4,447	75	¥4,481	78
1月10日	¥4,540	93	¥4,581	100
1月11日	¥4,675	135	¥4,720	139

プラチナ相場は、先週号においては『今後も円安が進むようであれば、まずは昨年3月の4,500円台へ。そして、いずれは5,300円を目指してゆく展開となるだろう。しかし金よりも高い状態に戻るかどうかは、実態経済の回復があるかどうかにかかっているだろうと見る』とコメントした。

今週の相場展開は、9日から3日連続の急騰となった相場が**4,728円(1/11)まで上昇**。一気に300円以上切り上げた展開であり、南ア鉱山の閉鎖の噂が相場を一気に押し上げる事となった。

このところの高値は、昨年3月の**4,589円**。それを一気に抜いて4,700円台まで駆け上がって来たわけだ。上場来最高値はリーマンショック前に**7,400円台**というのがあったわけだが、それを目標値とするのはまだ多少ナンセンスだろう。

3日で300円超の急騰というのも、如何に円安の支援があるとは言え、チャートの的にも過熱感が台頭しているのは否めない。金とのサヤも大きく詰まった事で、ここはやはり一度は調整が欲しい場面だ。

だが週末1/11のNYプラチナは、…中略…

だがいずれにしても、円安是正は安倍政権の国是であり、金も基本的には上げ相場と見ている限りは、プラチナ相場の押し目買い方針に変化はないだろう。押ししたところで買う、という方針さえ守れば良いのだろうと考える。

なお一代の動きは以下のとおり。全限一代高値の更新である。

東京プラチナー代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年2月	¥4,535	2月27日	¥4,678	1月11日	¥3,468	7月24日	¥4,675
2013年4月	¥4,090	4月25日	¥4,708	1月11日	¥3,466	7月24日	¥4,696
2013年6月	¥3,681	6月27日	¥4,712	1月11日	¥3,460	7月24日	¥4,703
2013年8月	¥3,860	8月29日	¥4,716	1月11日	¥3,807	8月31日	¥4,700
2013年10月	¥3,998	10月29日	¥4,720	1月11日	¥3,933	10月30日	¥4,710
2013年12月	¥4,249	12月25日	¥4,728	1月11日	¥4,236	12月25日	¥4,720

○プラチナ－金価格差日足

…削除済み…

週末現在のサヤは、4,720 円（プラチナ）－4,795 円（金）＝－75 円。

一般的にプラチナと金の価格差は、産金コストの差から 400～500 円程度プラチナが高いのが適正とされているわけだが、リーマンショック前の大きなサヤ開きと、その後の急激なサヤ詰まりから、昨年是一時－550 円までプラチナが割安になり、その後も現在に至るまでプラチナの下ザヤ状態が続いている。

今週は一気にサヤを詰めて来た相場であるが、これは南ア鉱山での問題が出たためであり、アングロプラチナム社が一部鉱山を閉鎖する方針だという話が、伝わったからである。

プラチナの国別生産高は、…中略…

結論として当方の相場観は、週末までの 3 連騰で若干過熱感が出ているか。ここは冷静に押し込んだ場面を買いたい、南ア情勢のニュースには注意が必要だろう。

〔穀物〕

○東京コーン日足

…削除済み…

今週のコーンの値動き

	3月限(当限)	前日比	1月限(先限)	前日比
1月7日	¥27,930	-40	¥25,540	-430
1月8日	¥27,870	-60	¥25,520	-20
1月9日	¥27,840	-30	¥25,560	40
1月10日	¥28,180	340	¥25,850	290
1月11日	¥28,600	420	¥26,160	310

まずはコーンから…

先週号においては『今は安値が出たら買い拾いたいと考えている相場であるが（2月崩しがあれば理想的）、今年の相場の天井も低いのではあるまいか？ また天候相場では早めに天井を打つと考えており、3月以降は高値があれば、売り場探しであろう。秋には内外とも、大きく下げているのではないかと考えている』とコメントした。

今週の相場展開は、週前半は安かったが、週末に掛けては反騰。先物2本は一代高値の更新となった。

昨年夏場に3万円で天井を打った相場は、昨秋に24,000円台まで下がった後、横ばいを続けて現在は26,000円に乗せてきたところ。

ただしチャートでは、久々に一目均衡表の雲の上に出た格好であり、元気がある相場ならば、底打ち→上昇への号砲が切られた格好である。円安はもちろん支援材料だが、さてそれ以外に買い材料が出るのだろうか？というところだ。

ただし内外とも、チャートは底打ち→上昇への格好となっている事は事実ゆえ、少なくとも売りポジションは解消が良いだろう。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京コーン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年3月	¥23,290	2月16日	¥30,340	8月22日	¥20,820	6月4日	¥28,600
2013年5月	¥23,250	4月16日	¥30,300	8月13日	¥21,040	6月4日	¥29,770
2013年7月	¥21,550	6月18日	¥30,300	8月13日	¥21,490	6月18日	¥28,770
2013年9月	¥28,500	8月16日	¥29,430	8月23日	¥25,510	10月1日	¥27,520
2013年11月	¥25,600	10月16日	¥26,220	1月11日	¥24,420	11月14日	¥26,160
2014年1月	¥25,700	12月17日	¥26,220	1月11日	¥24,930	12月21日	¥26,160

シカゴも逆ザヤなので、相変わらず東京も大きな逆ザヤ相場の形成となっているが、チャートの下落ほど一代の動きでは下げている事に注意は必要。

例えば3万円を記録した5月限は、…中略…

○シカゴコーン日足

…削除済み…

週末 1/11 のシカゴ市場は、3 月限で 10 セント高の 708.75 セントでの終了。12 月限では 7.00 セント安の 577.00 セントである。

相変わらずの逆ザヤ相場であり、サヤはまた拡大である。

この日、期近高の期先安となった原因は、…中略…

1/11 発表の米農務省報告では、生産高は 107 億 8000 万 Bu まで上方修正されたが、飼料用需要を引き上げたことで期末在庫率は 5.8%→5.3%まで下方修正。昨年同期の 7.9%よりは大幅に少ないわけで、ここで価格を引き上げ、農家に作付意欲を高めさせる作戦なのかも…。

また CFTC 発表の 1/8 現在のファンドのポジションは、…中略…

結論として当方の相場観は、相場は円安&シカゴ旧穀の在庫率低下を受け、一時的な戻り相場に入っているものと思われる。しかしそれは、まだ次の売り場提供のための戻りであろう。短期買いならともかく、本格的な上昇はまだ先の話であると見る。

○東京大豆日足

…削除済み…

今週の大豆の値動き

	2月限(当限)	前日比	12月限(先限)	前日比
1月7日	¥53,300	-890	¥49,380	-570
1月8日	¥54,410	1110	¥49,200	-180
1月9日	¥54,700	290	¥48,530	-670
1月10日	¥54,430	-270	¥48,910	380
1月11日	¥55,250	820	¥49,630	720

続いて一般大豆です…

先週号においては『今後の天候次第ではあるものの、今年も大豆の大相場は期待できないと考えている。2月崩しがあれば円安なので買いから入りたいが、春に上がったところはむしろ売りから入るのが、今年が良いのではあるまいかと考えている』とコメントした。

今週の相場展開は、週の半ばまでは下落が続き、**48,450円(1/9)の安値まで記録**。しかしそこから反騰した相場は、**49,600円台まで1,000円以上の戻り**を演じた。

円安は穀物相場にとっても追い風となるため、89円台を記録した為替相場で大豆も戻した。またシカゴ期近も反騰したので、週末は相乗効果での上昇となっている。

もっとも南米は豊作であるし、このまま上昇トレンドに入れるかどうかには大いに疑問があり、また円安傾向なので下値も堅いという状況にも変化は出ないだろうから、やはり動きは大きくないと予想せざるを得ない。

仮に為替が100円オーバーまで円安になるのだとすれば、当然の如く穀物相場も上昇する事は必至だろうが、…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京一般大豆一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年2月	¥41,900	2月16日	¥60,000	7月23日	¥41,050	2月16日	¥54,190
2013年4月	¥45,350	4月16日	¥56,480	7月23日	¥41,750	6月4日	¥55,250
2013年6月	¥44,700	6月18日	¥52,190	7月20日	¥44,400	6月18日	¥51,250
2013年8月	¥48,020	8月16日	¥51,810	9月5日	¥47,500	11月13日	¥50,340
2013年10月	¥47,220	10月16日	¥51,080	12月17日	¥46,920	10月16日	¥49,810
2013年12月	¥50,680	12月17日	¥50,680	12月17日	¥48,450	1月9日	¥49,630

○シカゴ大豆日足

…削除済み…

週末1/11のシカゴ市場は、1月限で7.25セント高の1424.75セント。11月限は15.75セント安の1266.25セント。

相変わらず旧穀、新穀の逆ザヤ相場であるが、この日に逆ザヤ幅は更に拡大した。この要因は、期近はコーンに連れ高したが、先物は南米の豊作予想や米農務省報告での生産高の上方修正を嫌

気したという事だろう。

この日発表された米農務省報告では、生産高を事前予想平均の 29 億 9900 万 Bu よりも多い 30 億 1500 万 Bu と発表。…中略…

シカゴだって、作付前にあまり安値にして農家の作付意欲を削ぎたくはないだろうから、そんなに下値が深いとも考えられないが、大きく騰がる材料も皆無だという事だ。

なお CFTC 発表の 1/8 現在のファンドのポジションは、…中略…

結論として当方の相場観は、円安なので国内相場は売りにくい、その円安だけで大きく買われた場面は売り場であろう。現在のところ、大豆相場自体には買い材料は皆無ゆえに。

[ゴム]

○東京ゴム日足

…削除済み…

今週のゴムの値動き

	1月限(当限)	前日比	6月限(先限)	前日比
1月7日	291.2	-3.3	303.7	-4.1
1月8日	291.0	-0.2	305.6	1.9
1月9日	293.7	2.7	308.0	2.4
1月10日	298.7	5.0	313.3	5.3
1月11日	298.4	-0.3	312.2	-1.1

先週号においては『310円台まで上がってきた相場が、どこで天井を打つのか？ファンドの買いはチャート要因だろうから、チャートが天井を付けたと確認できるまで売りは危険だろう』とコメントした。

今週の相場展開は、301.9円(1/8)まで10円ほど押しを入れた後に、更なる急騰。週末には321.0円(1/11)までの急騰となり、その後3連休を控えた利食い売りで値を消して終了した。

大発会に312.4円(1/4)の高値まで記録した相場は、10円押して20円の上げ。そしてまた10円下げでの終了だ。

ファンドはまだ買い姿勢を崩しておらず、取組高はこのところ急増して来ている。つまり、売り方も買い方も、それぞれの思惑で参戦して、なお戦線を拡大している道中にあるわけだ。

今のところ買い方の目標は、350円説～380円説、高い目標で400円説なども出ているようだが、こういう「目標値は相場が上がれば上がるほど切り上がってゆく」ものだから、今は何も言い様がない。

チャートでは、典型的な青天井の格好である事は指摘済みだが、…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京ゴム一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年1月	230.2	7月26日	306.3	1月11日	205.6	8月14日	298.4
2013年2月	230.0	8月26日	306.6	1月11日	216.4	8月31日	299.8
2013年3月	253.5	9月25日	310.1	1月11日	240.0	11月12日	302.2
2013年4月	262.1	10月26日	314.0	1月11日	241.8	11月12日	305.5
2013年5月	259.7	11月27日	317.0	1月11日	245.6	11月29日	308.6
2013年6月	286.0	12月21日	321.0	1月11日	283.8	12月21日	312.2

今週も、全限一代高値の更新中である。

当先のサヤは、1月限298.4円～6月限312.2円と13.8円の順ザヤ。ファンド買いでの上昇だが、サヤは変わっていない。

週末現在の輸入採算価格は、…中略…

国内営業倉庫在庫は、12/30 現在で 310 トン増の 7,136 トン。3 旬連続の増加である。

上海ゴム在庫は、…中略…

上海ゴム価格は、26,000 元台でのみみ合い中。上がっているのは、円安下の東京だけ。

ゴム生産主要 3 ヶ国による価格安定化策に関する情報は、今のところない。価格が上がって
いけば、彼らは何もすることはないのだろう。

東京市場の内部要因は、典型的なファンド買い対当業者売り。一般投資家は、どちらかと言
えば売りでつかまっている人の方が多そう。

結論として当方の相場観は、ゴム自体に上げ材料があるとは思えないため、天井を確認でき
ば売り参戦（今のところ 301.9 円割れで確認か？）良いと見るが、安易な売りは危険だろう。

〔原油・石油製品〕

○NY 原油日足

…削除済み…

今週の原油の値動き

	1月限(当限)	前日比	6月限(先限)	前日比
1月7日	¥59,060	-210	¥57,560	-360
1月8日	¥59,110	50	¥57,760	200
1月9日	¥59,390	280	¥58,150	390
1月10日	¥59,670	280	¥58,620	470
1月11日	¥60,000	330	¥58,970	350

まずは原油から…

先週号においては『現在上昇中の相場は、もうしばらく高いと考えるのが無難なのだろう。しかし長期的な原油価格の動向はまだ不透明であり、積極的な仕掛けはしばらくはしづらいところ』とコメントした。

今週の相場展開は、NY原油は1/10には高値で**94.70ドルを記録**。週末1/11は、前日比0.26ドル安の93.56ドルでの終了である。

チャートでは93ドル台に乗った時点で、一目均衡表の雲の上に出たの推移。シェールガス革命も、今のところは原油価格の弱材料にはなっていないわけで、相対力指数は70ポイントに接近である。

米国商品市場の中では、貴金属・穀物などを尻目にこの原油相場の相対力指数が一番高いわけで、つまりはそれだけ相場が強い、買われているという事を意味している。一体、原油高の背景に何があるのかは疑問だが、しばらくは「相場は相場に聞け」という事なのだろう。

ともかくチャートでは、…中略…

なお週末のロンドンブレントは110ドル台、ドバイ原油は106ドル台である。これらの油種は、今週NY原油が上がったのを尻目に、上がっていないという情勢である。

また1/8現在のファンドのポジションは、…中略…

○東京原油日足

…削除済み…

東京原油は、円安&海外原油高で、騰勢に歯止めが効かない状況となっている。週末には高値で**59,400円(1/11)**まで上昇しており、期近3本は6万円台の大台乗せ。

チャートでは、大発会後の押しも為替の調整が若干入ったためのものであり、その押しからあつという間の2,000円の急騰は、相対力指数78ポイントまで買われる過熱ぶりだ。

ここで反落しないで居るようなら、チャートは青天井型となってしまう。為替の動向とも合せ、来週の動きには注目であろう。

原由の証拠金は、現在1枚=8万円。倍率は50倍なので、1,000円動けば5万円で、2,000円

動けば 10 万円の動きである。今週の上げも、証拠金が簡単に倍になる動きであり、12 月の安値からは 7,000 円上げで=35 万円の動きである。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京原油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013 年 1 月	¥48,890	8 月 1 日	¥60,470	1 月 11 日	¥48,420	8 月 1 日	¥60,000
2013 年 2 月	¥53,910	9 月 3 日	¥60,170	1 月 11 日	¥50,290	9 月 21 日	¥59,880
2013 年 3 月	¥52,040	10 月 1 日	¥60,000	1 月 11 日	¥50,610	11 月 12 日	¥59,650
2013 年 4 月	¥51,740	11 月 1 日	¥59,810	1 月 11 日	¥50,390	11 月 12 日	¥59,400
2013 年 5 月	¥54,860	12 月 3 日	¥58,910	1 月 11 日	¥52,370	12 月 11 日	¥59,160
2013 年 6 月	¥58,080	1 月 4 日	¥59,400	1 月 11 日	¥57,320	1 月 8 日	¥58,970

結論として当方の相場観は、来週は青天井に突き進むか、少なくとも 4,000 円程度の大きな調整が入るかの正念場となるだろう。基本は押し目買いだろうが、大波乱する可能せも視野に入れて、相場を張るのが良いだろう。

○東京ガソリン日足

…削除済み…

今週のガソリンの値動き

	2月限(当限)	前日比	7月限(先限)	前日比
1月7日	¥71,740	160	¥72,650	-440
1月8日	¥72,410	670	¥73,170	520
1月9日	¥72,690	280	¥73,750	580
1月10日	¥72,890	200	¥74,230	480
1月11日	¥73,020	130	¥74,200	-30

続いてガソリンです…

先週号においては『まだ高値追いの最中の相場展開であり、値頃での売りは危険だろう。現状では押し目買いに分がある展開であるが、長期的に相場がどうなるのかは不透明。目先はチャートを手掛かりに…が良いだろう』とコメントした。

今週の相場展開は、大発会での高値更新後は円の若干の調整もあり押しが入ったが、その後はまた円安&海外原油高を背景に急騰。週末には75,100円(1/11)まで記録した。

全限一代高値の更新中の相場は、…中略…

すでに12月の押し目底66,480円(12/10)からでも9,000円超の上げであり、現在のガソリンの証拠金は1枚=8.5万円であるため、それが45万円替えの動きである。

ここまで来ると、さすがにどこかで売りから入りたい気持ちがフツフツと出て来る。ただし、飛んで火にいる夏の虫にはなりたくないのも、悩ましいところ。内部要因では当業者買いの、その他全員が売っている状況だ。

さて一代の推移は、以下のとおり。

東京ガソリン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年2月	¥58,670	7月26日	¥73,570	1月11日	¥58,160	7月27日	¥73,020
2013年3月	¥64,510	8月27日	¥74,270	1月11日	¥61,020	9月21日	¥73,480
2013年4月	¥63,400	9月26日	¥75,870	1月11日	¥62,560	11月6日	¥74,960
2013年5月	¥65,180	10月26日	¥75,570	1月11日	¥62,490	11月6日	¥74,670
2013年6月	¥67,980	11月26日	¥75,280	1月11日	¥66,480	12月10日	¥74,360
2013年7月	¥69,810	12月26日	¥75,100	1月11日	¥69,640	12月26日	¥74,200

1/11 現在の業者間転売価格は、…中略…

1/5 現在のガソリン在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、円安は続くと思われるので大天井ではないと思うが、さすがにここまでの急騰で、目先は売り場を探したい。どんな相場でも、上がったものは下がる、下がったものは上がるのが定説であるのは当然ゆえに。

○東京灯油日足

…削除済み…

今週の灯油の値動き

	2月限(当限)	前日比	7月限(先限)	前日比
1月7日	¥79,650	640	¥69,750	-590
1月8日	¥80,460	810	¥70,030	280
1月9日	¥80,860	400	¥70,380	350
1月10日	¥81,020	160	¥70,850	470
1月11日	¥81,100	80	¥71,130	270

最後に灯油です…

先週号においては『現状の需給の状況では、需要期明けの春までは下がらない可能性が高いだろう。円安進行下での輸入による対応は、更なるコストアップに繋がる可能性も高いものと思われる』とコメントした。

今週の相場展開は、大発会後の押しも3手にとどまり、週末に掛けては原油高&円安で再び急騰。週末には71,500円(1/11)まで上昇であり、期近はそれよりも更に1万円高い81,000円台まで上昇である。

灯油はガソリンよりも出来高が少ないため、…中略…

なお一代の推移は、以下のとおり。

東京灯油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年2月	¥61,810	7月26日	¥81,250	1月10日	¥61,350	7月26日	¥81,100
2013年3月	¥67,500	8月27日	¥78,850	1月11日	¥64,080	11月6日	¥78,720
2013年4月	¥64,320	9月26日	¥74,490	1月11日	¥62,960	11月6日	¥74,260
2013年5月	¥64,410	10月26日	¥72,230	1月11日	¥62,530	11月6日	¥71,810
2013年6月	¥67,680	11月26日	¥71,610	1月11日	¥64,690	12月11日	¥71,110
2013年7月	¥68,440	12月26日	¥71,550	1月11日	¥68,040	12月26日	¥71,120

1/11 現在の業者間転売価格は、…中略…

12/22 現在の灯油在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、国内需給逼迫は輸入で改善されているが、円安下の輸入ということでコストアップしている。よって灯油価格の高止まりは続くだろうが、調整安が出ないとこれ以上の急騰も難しいのでは？ 今後は逆張り対処と見る。

[為替・株式]

○ドル/円相場日足

…削除済み…

1/8には円安の調整が若干入ったわけだが、国内商品市場は貴金属にしろ、石油にしろ、ゴムにしろ、このチャートと全く同じ動きとなった。

そして週末には、89.34円まで円安が進行し、国内商品市場も多くの銘柄が高値更新となったわけである。なおNYタイムでは、89.41円まで記録している。

このチャートは青天井になってしまっているのだから、目標値は設定できないが、長いチャートでの上値抵抗線は、94.98円、101.43円、110.62円と続く。「アベノミクスでの円安誘導は、果たしてどこまであるか？」という問いに対し、各評論家らが目標値を出す根拠は、これらのチャートにあるのだろう。

なお来週の主な経済指標の予定は、

…中略…

○ユーロ/円相場日足

…削除済み…

円安は、ユーロ/円でも週末には118.58円台まで進んだ。また週末のNYタイムでは119.31円と更に円安を記録している。

ドル/円のチャートもユーロ/円のチャートも同じだが、相対力指数70ポイント以上での推移は、いわゆる青天井型のチャートである。

…中略…

○ユーロ/ドル相場日足

…削除済み…

ユーロ/ドル相場は動いていないわけで、だからドル建て商品相場はそんなに動いておらず、国内商品相場だけが円安で舞い上がっているわけだ。

○日経225日足

…削除済み…

今週は最後に、日経225のチャートとNYダウのチャートをアップするが、東京市場の株は円安で急騰中、NYダウはユーロ/ドル相場と同じように「もみ合い中」となっているわけで、チャートのそっくりな姿にびっくりするはず。

それにしても為替もそうだが、日経平均も野田前総理が衆院解散を宣言して底打ち→2,000円の上昇となっているわけで、結局は「政権交代こそが最大の景気対策」と民主党政権がかつて言っていたことが、ここで証明される皮肉な結果となったわけだな。

○NYダウ日足

…削除済み…

このレポートは、私が個人的な判断で書いたものです。
内容の責任はすべて私に帰するものですが、取引に対する利益を保証するものではありません。
(当たり前ですが念のため)

ひげの中ちゃん相場情報

中田幸一郎

メールアドレス info@higenaka.com